



公益財団法人 名古屋産業科学研究所
第33回産業科学フォーラム

日時：平成29年12月15日（金）14時～15時20分

場所：名古屋大学 VBL棟（4階）セミナー室

趣旨：透過型3D立体HMD（スマートグラス）が、医療用や作業支援、ゲームなどに頻用されつつある。しかし現実にはよく見えないスマートグラスが市場に回っている。根拠に基づき、だれもが良く見えるガイドラインを提案する。

講演プログラム

挨拶（14:00～14:05） 主催者

講演（14:05～15:20） 宮尾 克 上席研究員

講演タイトルおよび要旨

「3D立体映像の現状とヘッドマウント・ディスプレイのあり方」

透過型3D立体HMD（スマートグラス）が、医療用や作業支援、ゲームなどに頻用されるようになった。だれもが良く見えるためのガイドラインを提案し、根拠に基づき概説する。セイコーエプソン社による透過型HMD（MOVERIO Pro BT-2000）と通常の液晶ノートPCを注視した際の水晶体調節焦点を、14～88歳の128名により測定した。0.70m、1.25m、3.33mの3種の視距離、2デバイスに対する水晶体調節の測定を行った。スマートグラスの良い見えのためのガイドラインを以下に提案する。

- ①AR（拡張現実）における作業ガイドは、操作対象とほぼ同じ距離か、やや手前に表示すべきである。奥では、両者を重畳して、見比べることはできない。
- ②HMDは、セッティングできる瞳孔間距離の範囲を、ユバーサル化すべきで、瞳孔間距離の下限が57mmの作業員まで許容できるスペックが求められる（女性の95%レベル）。
- ③操作対象の輝度と、HMDの透過画像の輝度は、ほぼ同等の輝度がのぞましい。

*参加いただける方は、事前に下記まで連絡願います。

参加費は無料です。

公益財団法人 名古屋産業科学研究所・研究部

E-mail: dor@nisri.jp

*会場へのアクセス

地下鉄名城線 名古屋大学3番出口 徒歩3分

<http://www.nagoya-u.ac.jp/access-map/>

